

失地回復を目指すウクライナ

拓殖大学非常勤講師
伊藤嘉彦

いとう よしひこ 大東文化大学及び
独イェーナ大学博士前期課程卒。拓殖
大学大学院国際協力学研究科博士課程
修了。博士（安全保障）。

ロシア軍によるウクライナ侵攻から七ヵ月ほど経った。ロシア軍の攻勢が当初の勢いを失ったことにより一時的な均衡状態が生じ、戦線の移動はロシア・ウクライナ両軍ともにはならずかという状況が続いた。しかしウクライナ軍は八月下旬から南部ヘルソン州で攻勢に転じ、次いで九月上旬には東部ハルキウ方面でも反撃を開始、占領された地域の一部を奪還している。

ウクライナ軍の攻勢

九月四日、ウクライナのゼレンスキー大統領は南部と東部でいくつかの集落をロシア軍から解放したと発言し、これまで守勢に回っていたウクライナ軍が攻勢に転じていることを印象付けた。

実際に南部ヘルソン付近のウクライナ軍は、ロシア軍が兵站に使用している橋梁や補給基地を破壊することで、同州を流れるドニエプル川以北地域への増援と補給物資搬入

を断つ行動に出ていた。これによりドニエプル川以北に展開するロシア軍は、危険な渡河を避けて撤退することができない状況にも陥り、ウクライナ軍はロシア軍を同地に孤立させる形に持ち込んでいた。補給路・退路に不安を抱えるロシア軍に対し、ウクライナ軍は三方向からヘルソン市に向けて攻勢をかけている。

また東部地域のウクライナ軍は、ドネツク州のロシア軍に対してバフムートーソレダーシヴェルスクの線で抵抗し、ロシア軍の東部地域掌握を妨げていたが、ハルキウ方面では攻勢をかけて、九月一二日には同州の要衝クピャンスクおよびイジュームを奪還することに成功している。

ロシア軍の勢いは鈍化

一方、ロシアのショイグ国防相は、八月二四日にウズベキスタンで開催された上海協力機構の国防相会議において、ロシア軍の攻勢遅滞は民間人の犠牲を慎重に避けるた

めという表現を用いて、「特別軍事作戦」の目標到達に遅れが生じていること自体は認める発言をしている。

そのロシア軍は東部ドンバス地方の確保を目指して攻撃を継続。ドネツク州の都市バフムートおよびその北方に位置する都市ソレダー、シヴェルスクの制圧を目指している模様だ。シヴェルスク方面のロシア軍は、八月一四日に近郊の町スピルネを掌握し、シヴェルスク郊外に迫ったが、九月九日になってからウクライナ軍に押し戻されている。他方、ドネツク市北西の攻勢は一定の進捗があり、九月八日にピスキーの確保に成功したが、七月に見られたような要衝を包囲する機動は成果に乏しくなり、ウクライナ軍に戦線縮小を強いる形に持ち込めていない。また正面からの攻撃もその多くが撃退されている。逆にハルキウ州では、ウクライナ軍に戦線を突破され、占領地を奪還された。ロシアは九月一〇日に、ハルキウ州イジューム周辺の部隊をドネツク州方面に再配置すると決定し、ここにオスキル川以西のハルキウ州支配地をほぼ喪失することになった。ただし、ドネツク州の掌握を意図しても、勢いに乗るウクライナ軍の進撃に対処しながらドネツク州の作戦を進めなくてはならないため、ロシア軍は厳しい戦闘を強いられる状況にある。

またヘルソン州に展開するロシア軍は兵站線を破壊され、ドニエプル川以北の部隊への補給が困難な状況となっており、^{はしけ}船やヘリコプターを利用して細々と北部地域への補給を維持している状況といわれる。よって今後この地域を維持するならば、相当な労力をつぎ込むことになる。

攻守は逆転となるか

ロシア軍が東部ドンバスで攻勢を開始した四月、ウクライナ軍には兵器が不足しており、ロシア軍の機動に合わせ対処することが難しく、戦線の縮小を余儀なくされた。

しかし七月に西側の支援を得て実施したウクライナ軍による正確な補給基地・司令部などへの攻撃は、ロシア軍の兵器漸減と士気低下を招来し、九月から始まったウクライナ軍の攻勢では、むしろロシア軍がハルキウ州からほぼ駆逐され装備の多くを失い、戦線を縮小する側となった。

九月一九日の段階では、ウクライナ軍が主導権を握っているように見える。今後はロシア軍が態勢立て直しに成功するか否かが一つの焦点だが、米国の戦争研究所は東部への増援不足を指摘している。プーチン大統領は東部掌握の目標に修正はないと長期戦の覚悟だが、冬季到来前の目標達成は難しい状況に陥っているように見える。●